

令和4年度数学科・英語科習熟度別指導計画書

1 実施体制

- 教科教員全員で取り組む。
- 各学年を主として担当する教員による指導計画及び評価に基づいて進める。
- 指導方法の改善や評価方法については、各教科の中で日々打合せを行い協議する。

2 具体的な指導方法

- 全学年を対象に年間を通して習熟度別編成で行い、指導する。
- 全学年各クラス2展開（発展コース1・基礎コース1）を基本とする。
- 各学期1回以上、本人の実績をもとに教科教員が調整を行い、本人及び保護者と相談してクラス分けを行う。
- 通年、少人数指導を基本とするが、時期や指導内容、単元に応じてクラス一斉での指導を行う場合もある。

3 期待される効果

- 生徒の興味・関心や個に応じた指導を行うことで以下の効果が期待される。

(1) 生徒側

- ・習熟度別少人数で指導を行うことで、興味・関心・意欲をもって授業に取り組むことができる。
- ・きめ細かい指導により、基礎的・基本的な内容を定着することができる。
- ・発問や質問の機会が増える。
- ・数学科では、習熟度に応じた問題に取り組むことで学習内容の定着を図ることができる。また、同じ習熟度の生徒同士で話し合わせることで議論するなどして学びを深めることができる。
- ・英語科では、ペアやグループで音読及び表現活動に取り組むことで、語彙力や表現力を増やし、コミュニケーション能力を伸長することができる。

(2) 教員側

- ・生徒一人一人に目が届き、実態把握できる。
- ・生徒の習熟度に応じて、基礎的・発展的な授業展開が可能になる。
- ・教員同士が綿密に打ち合わせを行うことで、指導方法の改善や授業力向上が期待できる。
- ・数学科では、一人一人の学習進度に合わせながら基礎的な力を確実につけ、発展的な問題に取り組むことができるようきめ細かく指導ができ、学習指導要領の習いに沿った授業を展開しやすい。
- ・英語科では、即興的なやりとりにもきめ細かく指導ができ、学習指導要領の狙いに沿った授業を展開しやすい。